

第10回生涯学習笑顔のつどい



みんな あつまれ 笑顔のつどい

世代をこえた 地域のつながり

2026

2 / 1



10:00~12:10

(9:30~受付)

リーパスプラザこが 多目的ホール

主催：古賀市・古賀市教育委員会

主管：古賀市社会教育委員の会議



「生涯学習笑顔のつどい」がめざすもの

「生涯学習笑顔のつどい」は、生涯学習活動に携わっているさまざまな人や団体が集い、それぞれの活動を通して交流を深め、参加者の皆さんが笑顔になれることをめざして開催しています。

第10回となる今年のテーマは、「世代をこえた地域のつながり」です。古賀市で活動されている団体の方々からの発表を通して、参加された皆さんと意見交流を行いたいと考えています。

本日のプログラム

10:00～12:10

	内容
1	開会のことば 古賀市教育委員会 教育長 長谷川 清孝
2	市長あいさつ 古賀市長 田辺 一城
3	実践発表 【発表団体】 ●あったか♡くぼしょくどう 「地域のつながりを高めよう」 ●筵内区 「世代をこえた文化がつなぐ地域の輪」 ●みんふるや 「本で街をおもしろく」
4	グループディスカッション
5	閉会のことば 古賀市社会教育委員の会議 議長 園 久恵

問題提起

社会の変化に伴い、身近な地域とのつながりや地域での交流にも変化がみられています。このような中、社会教育に関する様々な活動が古賀市では行われています。

そこで、古賀市で活動されている団体の方々からの発表を通して、取り組みの思いや工夫を交流し、活動への理解を深めることにより、更なる市民活動の推進につなげる機会とします。

また、ふるさと古賀の「つながりを深める社会教育の推進」について語り合うことにより、参加者相互のつながりと社会教育活動への学びを深めたいと考えます。

あったか♡くぼしょくどう



「子どもから高齢者まで世代を超えて集える場所。この場所で人と人との関わりやつながりができたらいいな」という想いで「だれもが集える食堂」を運営しています。

食堂を始めてもうすぐ1年。食事をしながら、会話を楽しむ姿、また子どもたちの姿を笑顔で見守る大人の姿など、「誰にとっても」あたたかな居場所になっています。スタッフ一同お待ちしております。

筵内区



★筵内区ホームページ



筵内は約500世帯が住む地区で、昔からの農家や、新しい団地に引っ越してきた方々等さまざまです。その中であって、文化、スポーツ、音楽活動等さまざまなイベントが、昔から引き継がれてきています。

代表的なものが、手作り演芸の放生会、なの花祭り、古賀市民駅伝競走大会等です。どれも子どもから大人まで参加し、筵内が「ひとつ」になる瞬間です！！

そして令和3年から筵内ホームページを立ち上げ、各種イベントを中心にいろんな角度から「筵内」を紹介しています。後世に残すためにも継続していきたいと思っています。

みんなるや



みんなるやは「本で街をおもしろく」をテーマに活動している団体です。街の皆様が大切にされてきた本をご寄付いただく形で回収し、街に点在する本棚に展開したり、イベント出店したり、といった活動をしています。

街に点在する本棚はそれぞれ小さな古本屋や小さな図書館の形になっており、本を買ったり借りたりできるようになっています。

【発表①】

「あったかくぼしょくどう 世代を超えた交流の場づくり」

昨年の4月から『あったか くぼしょくどう』を開催しています。この「笑顔のつどい」には、2年前と昨年と参加させていただいていました。2年前に参加した当時は、いつかは地元の久保区で「みんなが集える食堂をしたいな」と漠然とした思いでしたが、昨年この会に参加したころには、4月実施を決めており、これからの運営などいろいろと参考にさせていただきました。私たち、あったかくぼ食堂は有志11人であったかくぼくらぶを2月に立ち上げ久保公民館で月に1回だれもが集える食堂を開催しています。記念すべき第1回は久保区の住民でもいらっしゃる田辺市長にも来ていただきました。そして区長はじめ久保区役員さんには会場準備などを手伝っていただきました。ここからは、活動のきっかけなどをお話したいと思います。私ごとで恐縮ですが、定年退職を迎えいつかは、生まれ育った地域で何か少しでも恩返しができないか、と考えていました。そのようなとき、3年前に久保区の「民生委員」のお話があり、少しでも地域の方々のお役に立てばという思いで引き受け、また同時に福祉会副会長もさせていただくことになりました。これまでの仕事で高齢者関係の部署が長かったこともあり、一人暮らしの方や、孤独死の方も多くみてきたので、高齢者には関心が高かったのですが、子どもとの関わりは、古賀東小学校の絵本読み聞かせを20年ほど続けていますが、それ以外子どもとの関わりはほとんどありませんでした。民生委員は正式には児童民生委員ですので、子どもの支援も含みますが、児童に対しては、何もできていませんでした。そういったこともあり、子どもから高齢者まで、世代を超えて集え、その中で関わりやつながりができたらいいなと思っていました。そこで考えたのが「だれもが集える食堂」の取り組みです。どうして「食堂」かというと、おいしい食事を提供することで、来てくれるきっかけになり、食事をだれかと食べることは人をつなぐことになるのでは、と思って「だれもが集える食堂」をしたいと思います。とはいえ、いざ始めようとなるときっかけが必要でした。久保区の福祉会定例会で福祉会長さんから久保西区のチャレンジ教室での世代間交流の取組についての話をききました。子どもから高齢者まで世代を超えた活動が行われていることを知り、隣で一緒に聞いていた区長さんに「久保西すごいですね」と話しかけたところ、「久保でもしたらいいね」と言われました。この一言に背中を押していただいて意欲が高まり、この年の12月末には翌年の4月から久保区でも、「だれでもが集える食堂」をやることを決めました。さて、いざ始めようとすると、活動に欠かすことができないマンパワー・資金・環境の整備が必要です。

最初にマンパワーです。現在スタッフは11名、福祉会長さんをはじめご近所の方、久保区の市役所職員OB、の方に声かけさせていただき快く引き受けてもらいました。中には「わたしも食堂やりたいと思っていた」という方もいて嬉しかったです。そして当然のように引きずり込まれた夫、市内に住む私の姉、それから別の地域の「子ども食堂」のボランティアをされていた方からも「協力します」といっていただき、スタッフとして活躍してもらっています。経験者がいることはとても心強く思っています。そのほか、ボランティアさんで2階の見守りで育成会の方に来ていただいたり、区の役員さんや福祉委員さんなども毎回数名来ていただいたりしています。助けて下さる方はいるんだなと感謝しかありません。

次に活動に際しては資金が必要です。発足当時全く資金がありませんでしたが、令和6年度から、「古賀市子ども食堂活動補助金」が創設されたので、その補助金を活動資金とすることができました。毎回の食材は1回1万円を上限に補助金が使えます。参加費は、子どもは無料、大人は一世帯100円いただいています。補助金と合わせてこの10カ月で3千円程度の赤字です。その赤字分は久保区福祉会から出してもらっています。

最後に物品ですが、食器や調理器具等は公民館にあるものを使用してもらい、不足していた、

炊飯器や布巾・消毒用品など消耗品は、補助金が10万円使えましたので購入しました。

このような形で、スタッフ・資金・物品を準備することができました。運営していく中でたくさんの方からご支援をいただいております。

食材ですが、第1回目はすべて購入しましたが、2回目からは市内の八百屋さんやコスモス広場さんに野菜を提供していただいております、野菜を購入することはほとんどありません。2階の大広間にはたくさんのおもちゃやお絵描き道具を準備していますが、すべて寄付によるもので、何も購入していません。このように、区の協力や、さまざまな方々から支援していただき運営することができています。

活動は月に1回、久保公民館で行っています。1階には、18名ほど座れる和室と、高齢者などテーブルと椅子を希望する方には12名ほど座れる洋室を準備しています。食事が終わったら、2階の大広間をみなさまの交流の場になるよう準備しています。参加者は月により違いますが、連休中や天気がよくないときは少なくて50人程度、多いときは100名近く参加者があります。最後に食堂の様子を紹介します。食事をしながら、顔なじみの方が会話を楽しむ姿がみられますが、知らない方同士でも会話が広がったり、子どもたちの姿に笑顔になられる高齢者の方を見かけたりすることも増えました。また2階では、おもちゃに夢中になって遊ぶ子どもたちの姿や、ご近所の方と膝を突き合わせてお話をしているお母さん同士の姿、高齢者の方と折り紙やお絵描きを楽しんでいる子どもたちなど、微笑ましい姿がみられます。

参加者の方々から感想をいただきました。

- 近所にこんなにたくさんのお子さんがいることをはじめて知り、子どもたちが楽しく遊んでいる姿を見られてうれしかった。
- 子どもが食べなかった野菜を食べられるようになった。
- 食事がおいしかった。家でも作りたいので、レシピが知りたい。

このような感想をいただき、私たちの励みになります。当初目標としていた世代を超えた交流の場が少しずつ形になりつつあると考えています。今後更に回数を増やして、活動を充実させたい気持ちはありますが、私たちもまだ仕事をしていますし、スタッフの負担を考えると慎重になります。まずは長く続けることが大切だと思っています。これからも、世代をこえてだれでも集えるあったかい場所になるように、スタッフ一同頑張っていきたいと思っています。

【発表②】

「筵内区 地域の活動について」

筵内区の取り組みについて映像を作成しました。スクリーンをご覧ください。

(映像上映)

(まとめ)

筵内では映像で見ていただいた通り、様々な活動をしています。その集大成が筵内放生会であり、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加しています。私自身も博多にわかを通して、子どもたちと一緒ににわかを披露しています。子どもたちがいずれ大人になり、子どもの頃の思い出として振り返ってもらえたらいいなという思いで今後もやり続けていきたいなと思います。筵内の活動が少しでもヒントになればと思います。

世代をこえた地域のつながり

－ 筵内の活動について －

筵内の組織体制と各種団体

行政区長 ー 組長会(17組合)

筵内ホームページプロジェクト

農区長 公民館主事 公民館委員(17組合)

ふる里創生委員会(会長、委員45名)

育成会
女性学級
筵寿会
走ろう会
半面会
しらさぎ文庫
バレーボールクラブ

★世代を超えた取り組みで大切にしていること

1、諸先輩の方々が、築いてこられた伝統を継続すること。

➡ 時代の流れにあった、継続しやすい内容に変えること。

①放生会を昨年9月18日固定から9月の第二日曜日の三連休の真中の日曜日に変更。

②祇園山笠を7月15日固定から7月の第二日曜日に変更。

★地域ぐるみの取り組みが続く理由

1、区役員と区民の方々の、理解と協力・バックアップがあること。

2、共感してくれる仲間が多くいて、後継者も育っていること。

3、飲み会、懇親会等の飲みニケーションが頻繁にある！！

世代を超えた筵内のつながり

1、子供のころからの地域活動の**つながり**が、大人になってもつながっている。

➡ 小学生・・・放生会、菜の花関連、子供神輿等

➡ 中学・高校生・大学生・・・駅伝関連・スポーツへの参加

➡ 社会人・・・消防団活動、駅伝関連、ふるさと創生への参加

➡ 大人・・・区関連役員

2、駅伝に勝つことで、「駅伝といえば筵内」というアイデンティティ（郷土の誇り）のようなものが育ち、放生会や菜の花祭りとともに、**筵内区民の心をつかんでいる。**

【発表③】

「みんふるや 本で街をおもしろく」

私たちは「みんふるや」という名前で活動しています。

『みんふるや』というのは一体何だ?」と思われるかもしれませんが、こちらは「みんなでつくる古本屋」という言葉を略して「みんふるや」と、団体名・プロジェクト名を名づけました。今日は、私が「みんふるや」を始めたきっかけや、どのように活動をスタートさせたか、また現在の活動内容について説明して、「みんふるや」のことを知っていただくとともに、ご来場の皆様からのご意見をいただき、ディスカッションができればと思っております。よろしくお願いします。

活動を始める前の私は漠然と「まちづくり」というものに興味があり、「まちづくり」関連の講演会を聴きに行ってみたり、ゴミ拾い活動に参加してみたり、などといったことをしていました。ただ、「自分で何かを始めてみたい」という目標を持っていたので、なかなか、ゴミ拾い活動や講演会への参加などだけでは満足できず、悶々とした日々を過ごしていました。

「何らかの形で街に関わってみたい」という想いはあるものの、スキルなし・お金なし・活動拠点となるような場所もなし、という状況で、何から始めれば良いかわからない、といった状況でした。

そんなある日、一つのアイデアがうかびます。世の中には捨てられている本がたくさんある。そして、街には使われていない空いているスペースがたくさんある。それなら、街の空いているスペースに、街の人がご不要になった本を置けば、古本屋さんのようなことができるんじゃないか?と考えました。街の本屋さんが以前と比べて少なくなってしまう、私自身、寂しさを感じていたこともあり、このアイデアを実現させようと動き始めます。

まず、最初に私がしたのは、SNS アカウントを作成し、アイデアを発信・周辺の住民とつながる・周辺のお店とつながるということをしました。

私のアイデアを面白がって協力してくださる方、本をご寄贈してくださる方、本を置かせてもらえるお店や施設を紹介してくださる方などいろんな方が関わってくださり、プロジェクトが動き始めました。その結果、現時点では「ヤドカリ古書店」という名前で運営して小さな古本屋を6ヶ所、小さな図書館を4ヶ所、展開している状況になっています。ほとんどが古賀市内のお店や施設などで展開していますが、宗像市や新宮町にも1軒ずつ展開しています。

その中の一つ、古賀駅西口からほど近い「なかいわ整体院」さんでは、小さな図書館の運営とともに、みんふるや事務局としての役割も担っていただいております。事務局では、主に古本の回収や問い合わせに対する対応などをしていただいております。

また、去年は古賀東中学校の地域開放室の棚の上にも本を並べさせてもらい、小さな図書館を展開させていただくことができました。中学生に読んでほしい本、図書室にはなさそうな本、などを意識して本を置かせていただいております。これから少しずつゆっくりと、本を増やしたり什器を設置したり、グレードアップさせていけたらいいなと考えています。小さな古本屋・小さな図書館とは別の活動として、各地で行われるイベントにて本を並べて「本のある空間づくり」をしたり、古本市のような形で古本の販売をしたり、といったこともやっています。野外に本を並べてくつろいでもらうスペースをつくるなど、最近は面白いこともさせてもらっています。スマホやパソコンなど

が発達した今の時代では、外で本を読むという行為も体験として面白いのかな、と感じています。

「本がある場所」に行くと、本との偶然の出会いがあります。もちろんインターネットでも本との偶然の出会いがありますし、買うこともできます。しかし、その場で手に取って読むことができるリアルな本のパワーは何ものにも代え難いです。みんふるやの活動を通して本との豊かな出会いを、増やしていけたらいいな、と考えています。これからやってみたいこととしては、街の空きテナントや空き家を古本屋さんにしたり、学校の空き教室を図書館にしたり、といったことをやっていきたいと思っています。学校の空き教室を図書館にする目標については、古賀東中学校に展開している小さな図書館にて実現できつつありますが、少しずつ本を増やすなどしながら、充実させていきたいと考えています。

【質疑応答】

(参加者 A)

みんなふるやに質問です。古賀東中学校には子ども向けの本だけでなく、大人向けの本も置いてありますか。また、借りるときはどのようにしたらいいですか。

(みんなふるや)

古賀東中は現時点では中学生向けの本を中心に置いています。古賀東中学校はこれからなので、運用については特に決まっていますが、他の場所では貸出ノートに借りた日、ニックネーム、返した日を書いてもらう運用にしています。

(参加者 B)

筵内区については、放生会が活発に行われています。

地域の活動の継続は難しいと感じますが、筵内区は今でも芝居が残っています。その活動を知らない方が多いので、もう少し詳しく教えてください。

(筵内区)

子どものときのことがずっと大人になってからも引き継がれています。駅伝が筵内を育てているという思いがあるので、ずっと続けていきたいです。

自分も子どものころ、地域の支援があり、教えてもらいながら行事を手伝っていました。大人になって地域に何ができるかと考えたときに地域の子どもたちの思い出づくりや恩返しという気持ちでやっています。

(参加者 C)

みんなふるやは古賀駅西口周辺の駐車場にてイベント的に「本のある空間づくり」ができた経緯、また現時点で公民館に本を置くことがなぜ実現できていないのか教えてください。

また、あったかくぼしよくどうに本を置いてるのかどうか教えてください。

(みんなふるや)

「本のある空間づくり」として古賀駅西口周辺の駐車場に本を置かせていただきましたが、経緯は駅前の事業の一環で関係者からお声がけがあり、実現しました。現在、公民館に本を置いてませんが、これまでにそういう方とつながっていなかったからだと思います。古賀市では子どもたちが参加する通学合宿が盛んだと聞きましたので、

今後ゆるくつながって本を置くことが少しずつ実現できたらと思います。

(あったかくぼしよくどう)

公民館の2階にも寄付をいただき、本を置けていますが、おもちゃのほうに遊びがいてしまい、本を手にとる子は少ないと感じます。

(参加者 D)

筵内区に質問です。やはり行事には同じ方が参加することが多いと思いますが、筵内区は世代間のリレーがうまくいっていると思いました。大学生や就職された方が駅伝の参加に戻ってくることもあるのでしょうか。

(筵内区)

筵内の一歩の世代間の交流は駅伝です。中学生になったら走ることが根付いています。足の速い遅いは関係なく参加します。地域の方も送迎や応援、打ち上げに参加し、走らない方もいろいろな手伝いをしています。いい意味でのぼせもんが何人もいます。必ず地域には盛り上げたい、楽しいことが大好きな人がたくさんいますので、その人たちに押し付けるのではなく、楽しんでやるととても盛り上がると思います。

昔は駅伝の前に24時間駅伝を行っていましたが、現在は8時間駅伝として行っています。

また、中学生までは走りますが、高校生、大学生になると走らない子も多くなります。しかしながら、学生を卒業して就職して再度走る人もいます。

(参加者 E)

筵内区の8時間駅伝に参加しましたが、走るのが得意な人も小さな子どもを連れたお母さんも走っており、いろいろな人が関われるところが持続性だと思いました。放生会ではいろいろなグループごとに演劇などの発表が活発に行われています。

【会場からの質問・意見】

(参加者 A)

筵内区の区長を2年前にしましたが、筵内に住んでから地域の伝統文化を守ることが当たり前だと思っていました。自分一人ではなく、周りからの後押しがあったからこそ、区長を務めることができました。これからも筵内の伝統はつぶれないと思います。でも、後継者が少なくなっているのは事実です。若い人を育てるためには高齢者がサポートしていきたいという思いでやっています。

(参加者 B)

あったかくぼしょくどうの方がグループにいらっしゃって、参加者数が読めなくて食事の用意が大変なようですが、参加した高齢者がどんどん元気になり楽しんでいることや、子どもたちも食べたことがない食材もたくさん食べてくれるという話がありました。

みんふるやは皆さん興味津々で、本があるので持っていくと言っていました。

(みんふるや)

古賀駅西口のなかいわ整体院が事務局なので本がありましたら、そちらに持ってきていただければと思います。

(参加者 C)

大人から子どもまで、一緒になって活動する行事が昔はありましたが、今は縦と横のつながりが少なくなってきました。筵内区の方がグループにいらっしゃって、大人が楽しく活動に取り組んでいて、それが子どもたちにも伝わっていて、それぞれが得意なことを生かしているという話が出ました。自分自身、中学校の教員をしています、学校と地域がどうつながっていくか参考にしたいと思います。

(参加者 D)

筵内区は伝統をつないでいくことで地域の中で顔の見える関係性ができ、それが防災にもつながると思いました。素晴らしい取り組みに感動しました。「恩送り」という思いが地域に息づいていると思いました。

あったかくぼしょくどうは、いろいろな世代が来られる素晴らしい食堂だと思いました。

また、去年の笑顔のつどいで子ども食堂の発表があり、それがあったかくぼしょくどうにつながっていることに嬉しく思いました。

みんふるやは個人の立ち上げでここまでできて素晴らしいですし、今後、各地域の校区コミュニティに働きかけ、公民館とのつながりもいいのではないかと思います。

(参加者 E)

これからの事業を行っていくときに役員主体でお客さんが来ることは難しいと思います。

あったかくぼしょくどうは、地域の方が自分のできることを提供しようという思いが食堂を支えています。筵内区は、菜の花まつりをどうやってつないでいくかということ、子どもが小さいときに地域から可愛がってもらって育ったことが大きいと思います。市の行事も地域が盛り上がっていくような仕組みにシフトしていくことが必要だと思います。やはり、今まで通りではなく、地域環境が変わっていく中で柔軟に変えていく必要があります。子どもの時から地域に可愛がってもらい、地域の中に自分事として楽しむ「のぼせもん」を育てていくことが世代間をこえるいい道ではないかと思いました。

(参加者 F)

筵内の走ろう会に入っていますが、走ろう会を通じて新しいイベントも開催しています。ホームページを通じて筵内区のイベントを知り、大阪からわざわざ参加してくれる人もいました。

(参加者 G)

3団体とも素晴らしくて感心していました。あったかくぼしょくどうは食を共にすることが心理的距離を縮めます。筵内区は特に飲みニケーションが大切で、若い保護者の地域貢献活動が多いと思います、参考にしたいです。みんふるやは広報活動が非常に新しく、SNS を通じてマンパワーを集めていて素晴らしいと思いました。

朝勉や子ども食堂は、課題のある子どもにとっては大切な居場所になっています。

今日は素晴らしい発表を聞いて元気が出たので、自分も活動を持続したいと思いました。

(参加者 H)

地域で世代をこえた活動をするのが難しい状況です。今は参加する方がお客さんになっているので、参加者が自発的になり、他の活動につながっていくと思います。

(参加者 I)

できる人ができるときにできることをする仕組みを作ることや、役割を具体的に提示することが大切だという意見が出ました。3団体の発表を聞いて、世代をこえたつながり方が3つ見えたと思います。1つ目が活動を中心に協力する団体とつながる、2つ目が場をつくることで集まった人同士がつながる。3つ目がみんなふるやのように SNS を使って新たにつながる。また、人と人がつながることで活動と活動がつながることもあると思い、学びになりました。

(参加者 J)

若い人が団体になかなか協力してくれない現状がありますが、できることを少しずつお願いし、子育てが落ち着いた頃に団体に入ってもらいようをお願いしている自治会もあるようです。そのように少しずつ協力してもらい、地域の担い手を育てていくことも必要だと思います。筵内区は古賀市の中でも独立したようなすごい地域。女性学級では菜の花まつりのぜんざいづくりが一番大変だそうです。できる人ができることを短時間でもいいのでやっていくことが大切だと思います。また、地域の高齢者が明るく元気に楽しく生きられることが大切だと思いました。

(参加者 K)

このグループでは、「のぼせもん」「継承」「持続可能」というキーワードが出ました。地域のいろいろな問題を考えるときに「自分ごと」として捉えることが大切だと思います。発表を聞いて、言葉には表せないくらい感動し、今日参加してよかったなと思いました。この会を開いていただきありがとうございました。皆さんの意見を聞いて、地域のことを考えて皆さん参加されているなと思いました。

【まとめ】

私自身もいろいろな事業に関わっていたので、今日の発表を聞いて非常に参考になりました。個人的な感想も含めてお話したいと思います。あったかくぼしょくどうは、私も町川原 1 区でみんなの食堂をはじめましたので非常に勉強になりました。筵内区は地域の活動を通してコミュニティが成立することが驚きでした。みんなふるやは SNS を使って発信しており、あのやり方だと誰もがいろいろなことを始めることができるといひヒントになりました。「バタフライエフェクト」といって、「ブラジルでの蝶の羽ばたきがアメリカで竜巻になった」という意味の言葉がありますが、地域活動はそういったことを多く含んでいると思います。今日聞いてよかった話を皆さんが持ち帰って、少しでもアウトプットしていけたら古賀市に広がるといひます。今日はありがとうございました。

第10回笑顔のつどいアンケート結果

- ・期日 令和8年2月1日(日)
- ・参加者 75人(社会教育委員、事務局等も含む)
- ・回答状況 回収数:46件

1. 年齢

	人数	割合(%)
10代以下	0	0
20代	0	0
30代	2	4.3
40代	4	8.7
50代	7	15.2
60代	13	28.3
70代	20	43.5

2. 今回は何回目の参加ですか

	人数	割合(%)
初めて	31	67.4
2回目	4	8.7
3回目	2	4.3
4回目以上	9	19.6

3. お住いの小学校区

	人数	割合(%)
青柳校区	1	2.2
小野校区	2	4.3
古賀東校区	23	50
古賀西校区	6	13
花鶴校区	3	6.5
千鳥校区	2	4.3
花見校区	1	2.2
舞の里校区	2	4.3
古賀市外	5	10.9
その他	1	2.2

4. 所属している団体・または役職

	件数	割合(%)
特になし	13	28.3
行政区長	6	13
分館長・分館主事	2	4.3
民生委員・児童委員	4	8.7
福社会	8	17.4
校区コミュニティ 運営協議会	3	6.5
小・中 PTCA	2	4.3
文化協会	2	4.3
スポーツ協会	3	6.5
市民活動関係団体	3	6.5
社会教育関係団体	1	2.2
古賀市行政関係者 (職員・議員)	4	8.7
学校関係者	4	8.7
その他	5	10.9

5.実践発表について

	件数	割合(%)
大変参考になった	31	67.4
参考になった	13	28.3
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0

6. 実践発表について、ご意見・感想（原文のまま記載）

1	地域の中での縦と横の人と繋がりが希薄になるなかで、本日お話していただいた団体の取り組みは大変参考になりました。現在の職場では子どもや地域と関わるが多いため、自分の立場で何が出来るかということを考えていました。
2	このような集いがあることを知りませんでした。大変興味深く拝聴致しました。筵内区はスゴイ！の一言です。くぼ食堂は立ち上げまで、どれだけの時間、労力、頭脳、手間がかかったことか。自身の区でも月イチで朝ごはんの会を始めたい、と思うものの皆さん忙しいので賛同を得られずにいます。みんふるやはSNSを使った新しいつながりからの楽しい古本屋さん。同じ古賀市内でこんなにも知らないことが多いなんて嬉しい驚きでした。
3	すばらしい発表でした。感動しました。3団体ともとても参考になりました。笑顔のつどいをこれからも是非続けてください。ありがとうございました。
4	世代をこえた地域のつながりと題して3団体の発表を聞いて自分が地域にできることを少しでも協力したいと思った。継承できることは素晴らしいがまだまだ課題は多い。
5	それぞれに参考になることがたくさんあった。発表を生かせるよう役立てたいと思った。
6	筵内区はあこがれであり、目標ですね。新興住宅もあり厳しい部分、歴史的や地域的な違いで難しいか？子ども食堂は私も庄でもやっていますが春・夏・冬休みしかやってなくて、毎月開催できれば？と思います。「みんふるや」は発想が素晴らしいです。
7	くぼしょくどうは、子ども食堂と違い高齢者まで参加できることが子どもにもいい環境になっていると思う。筵内区は時代に合わせた継承を！みんふるやは、PRを進めて、公民館等にも広げていただきたい。
8	初参加でしたが、地域の活動が色々あり、盛んだと感じました。まったく知りませんでした。筵内区の伝統を今も引き継いでいることに感動しました。
9	いろいろな活動をしておられる方がいらっしゃるんですね。筵内の昔からの活動を継続されていることがとても素晴らしいと思います。反面、地域のつながりのない地域での活動の難しさを改めて感じました。
10	学校教育が「世代をこえた地域のつながり」に必要な資質・能力の育成のために果たす役割の大きさを実感しました。また、地域の皆様の取り組みに心より敬意を表したいと思います。
11	どこも素晴らしい活動ですね。なんでも立ち上げるまでが大変ですよ。ずっとずっと続きますように！
12	筵内のような昔ながらの地域の人とのかかわり方が残っていけばいいなと思います。
13	それぞれに三者三様の活動発表がよかったです。若い世代にどうつなげていくかが大事なところだと思いますが、その辺りの話がもう少し聞けたらと思いました。
14	同じような住宅団地で高齢化率が60%になる。減ってきた子どもたちのために公民館での寺子屋や通学合宿をしている。子どもとお年寄りのつながりができつつあるに感じる。

15	筵内区の活動に感心した。
16	課題は共通していることがわかりました。その中で「できる人ができることを」というシステムづくりと下準備や生きがいをつくっていくことが大切だと思いました。
17	古本の募集を古賀市の回覧板で行っても良いのでは。以前行っていた成人式駅伝に代わる駅伝大会を交通の妨げにならない地区での田舎道を使用でもよいので行ってもいいと思う。
18	筵内の活動が良いことと言われていました。私も初めて出席して勉強になりました。子ども食堂の話を聞いて感心しました。
19	古賀東中にこんな場所があることを初めて知り、捨てようと思っていた本を持って行ってみようかなと思った。
20	くぼしよくどうの事がとても参考になりました。みんふるやの件は全く知らなくてとても良いと思いました。是非行ってみたいと思います。
21	実践の難しさの方が先に立って手を出すことの困難に思っていました、できることだけでいいのだと思いました。
22	とても良かったです。
23	貴重な話が聞けて良かったです。
24	初めて参加しましたが、とてもいい場だと思いました。参加者が年配の方が多いなと感じ、もっともっと子育て世代の方が参加されると古賀市がもっと違っていくのかとも思いました。こういうことをやっていると知らない方が多い。もっと皆さんに知ってほしい。
25	3団体それぞれによかった。素晴らしかったです。
26	発表者と参加者に一体感が生まれていて、とてもよかった。
27	筵内の活動の素晴らしさを知りました。
28	持続性。ゆるやかな。のぼせもん。
29	3団体とも大変参考になりました。
30	みんふるやの活動に興味を持ちました。本の設置の準備など知りたい。
31	つながり合うヒントを3事例から学ぶ機会になり、又、グループワークではメンバーのとらえ方と各自の課題、発表ではさらに深掘りできました。
32	皆さん、活動を楽しんでおられるのは素晴らしいです。

33	笑顔のつどいのつながりをうれしく思います。
----	-----------------------

7. その他, ご意見・感想(原文のまま記載)

1	今回の取り組みをより多くの方に知ってもらう機会があればと思います。
2	小野校区は、とにかく公共交通の便が悪くリーパス、コスモス広場などへのアクセスが限られます。いろいろなことに興味を持って学習したり催しに参加するには足が大事です。催しのお知らせに、大まかな地域割をして、この地域からだこの時間このバス、などのように そこまでのアクセスも載せていただけると助かります。
3	今回の3団体の発表は内容的にも時間も早く素晴らしかったです。今後も発表団体の発掘を様々な分野から探してほしいです。
4	大変参考になりました。一つだけ、開演時間を約30分程早めてください。お願いします。
5	食を通して幅広い年齢層のつながりを持てるように各地区年1回でも何らかのイベントを企画するのも一つの方法と思う。
6	色々、知らないことがあるんだなと思いました。どんな風にお知らせしてあるんでしょうか。筵内には子ども図書館があり月に何回か開いています。
7	いつもありがとうございます。
8	地域の取り組みのお話を聞くことができたり、普段出会わないであろう方とディスカッションできたりと貴重な体験をさせて頂いてすごく楽しく感じました。また是非参加させていただきます。今日はありがとうございました。
9	地域で小さなサポートからはじめてみたい。
10	地域に育ててもらったという思い、そして、大人になってそのことを地域にお返しするという、地域のことが人育ちそのものになっていることが素晴らしい。
11	今日の話を参考につなげていこうと思います。
12	筵内活動を聞き、根付く地域と感じた。
13	今回初めて聞く活動が多くて参考になりました。「子どもの時参加して今がある」子どもと接していてつながっていく。
14	みんふるやのように、若い世代の人の発想でまちづくり、地域づくりに関する実践を聞いてみたいです。